

～あなたは自分で作り上げていませんか？～

「義」と言う漢字の意味を知っていますか？一般的には、正しいと言うニュアンスが思い浮かびます。同じ正しいと言う意味でも「義」は内面の正しさを表します。心が正しいかという、その人の心の内側をさしている意味があります。この漢字の成り立ちは「羊」に「我」と書き、意味は「羊に鋸を入れ犠牲とする。その性体に何ら欠損もなく、神意にかなうことを『義』たしいという。」です。まさに十字架のイエス様を示しています。聖書では御言葉は切り裂くものだと書いてあります。(ヘブル4：12) 御言葉は剣であって剣(御言葉)によって刺し通されて生贄となる。その事を通して義となると言っています。「義で生きる」の反対の意味は「罪」です。この罪というのは自分を作り上げることを通してできます。(マタイ6：33)「だから、神の国とその義をまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」この「神の国」は何ですか？「なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。」(ローマ14：17)とあるように、神の国は「義と平和と聖霊による喜び」です。だから、神の国そのものを求めなさいと言うこととなります。では、神の国そのものを求めるとはどういう事なのかというと「義と平和と聖霊による喜び」を求めよと言うことです。私たち自身が義とならなければなりません。では、自分は、先ほど義と言った言葉のように、剣で刺し通された何の欠損も無い生贄の羊のようでしょうか？どのようにして義になるのでしょうか？聖書は、何によって義と認めているのでしょうか？ローマ書・ガラテヤ・Iコリント…多くの箇所がありますが、信仰によって義と認められています。では信仰はどうやって得られますか？「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」(ローマ10：17)です。義とは私たちの心にまず聞くことから始まります。神さまの国を求めるといふ気持ち・神の国とその義をまず第一に求めるといふのは何なのかと言うと、イエスキリストを聞くことにあるのです。聞くことで心が義と認められ、義と認められることを通して聖霊様が私たちの内に働いて、私たちの心には喜びがあふれます。だから聖霊様による喜びをもった人は平和に歩むことができるのです。だから、私たちの心の中に神さまが働かなければなりません。元に戻るということなのです。私たちが神さまによって創造された元の姿に造り変えられ元に戻ることを通して私たちは義と認められるのです。ではなぜ今私たちが聖霊様による喜びを得られず義の中に歩めないのかというと、そこに問題があるからです。信仰によらない・聞くことができない・偽りがある…これらが神の国とその義をまず第一にできない理由です。義人とは①**信仰によるのです**。信仰によらなければ義人にはなれません。(ガラ2：16～19)18節の「もし私が前に打ち壊したものをもう一度立てるなら」とありますがこれが偽りです。19節の「律法によって律法に死んだ」これが義です。律法は神さまが守れと言われたことですが、律法を犯すようになったのは人間が作り上げた罪のせいです。創世記の時代に神さまは罪を創りませんでした。罪は人が作り上げたものです。聖書では、人が自分を知ることを通して作り上げたものを偽りだと言っています。それを誘惑したのは悪魔ですが、悪魔が罪を作ったわけではありません。だから、人が作り上げたものを聖書では偽りだと言っているのです。そうすると、19節は、偽りの罪を制する律法によって、その偽りの罪を律法によって死なせたということです。20節の「私」も偽りです。私たち自身が私だと思っていることが偽りです。義人とは②**聴く者であるです**。(ローマ10：17・18)聴こえないのではなく聴かなかったのです。「聴」の当初の意味は「神の啓示をきく」です。聴くということは私たち人間にとって会話や言葉ではありません。人が立っているその所に大きな耳を置いてそれを感じるということです。「神の啓示」ですから示されるものを感じ取るという意味があります。だから耳から聞くだけでは私たちは実行できません。私たちの心が義を通して聴かなくてははいけません。神さまを求める気持ち、そして求めることはそこにイエスキリストを映し出さなくてははいけません。そしてイエスキリストを感じながらイエスキリストの体全体を言葉として感じなければならないのです。聴くときには人から聞くのではなく神さま自身から聴くという態度が必要です。それは求める気持ちを持ってでなければはいけません。人や環境に気をとられているとただの「聞く」になってしまいます。ですが、そこで私たちは耳を外に出してそこで語られる神の啓示を聞かなくてははいけません。私たちは五感を外に出して神の啓示を感じなくてははいけません。「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」どうか神の言葉を聴いてください。その中で、私たちの霊の耳を開いて聴かなくてはならない一文があります。私たちを生かす御言葉を、私たちの心の中に眠っていた知識のロゴスの言葉を、奮い立たせるレイマの言葉を聴いてください。義人とは③**偽らないです**。神さまが今日私たちに伝えたいのはこの偽るということです。「偽」とは、人のために為すという意味ではなく、人が為してしまうことという意味です。人が為してしまう事が偽りなのです。「神の右の手で作られたものでないものは偽りだ」と聖書は言っています。また、「為」の意味は「正体を隠して上辺をつくらう」アダムとイブの原罪と同じです。人が偽っているのではなく、自分が偽っているのです。私たちは、姿をつくらっていませんか？本当の自分の姿でない姿を私たち自身の心がつくらせているのです。どうしてそうなるかというと、聴くことができない・啓示が受けられないからです。啓示が受けられていますか？人の話を人が語っていると思っっているうちは、自分が作り上げた耳で、私たちが作り上げた価値観で、私たちが感じる感情のままに聞いているのです。だから、私たちが作り上げたものに対して言われることが辛いのです。私たちは、神さまが作り上げたものだから素晴らしいのです。私たちは神の作品であるので、それに自分が手を加えて作り上げてはいけません。偽ってはいけません。自分自身に今偽りがなければどうか見返してください。義人として生きるために、まず聴かなければならない。そして信仰によってそれを受け入れなければなりません。聴くということはイエスキリストによるのである。だから私たち自身が御：言葉を大切にしていかななくてははいけません。今日神か語られるこの「今日」を逃してはいけません。「うなじをこわくしてはならない」とあります。私たち自身が神さまの啓示を聴いて最初の人間アダムとイブが創造されたときの姿に戻らなくてははいけません。完全に肉に死んで偽りをこわし、義人として神さまの中に生きましょう。(要約者：行司佳世)